

# 農繁期 レポート

令和4年 6月号

## ニールファーム

オーナー	株式会社新流
水田面積	5.6アール
保証量	玄米252kg
形態品種	特別栽培コシヒカリ



### 生産者 ツライフ農園：北出茂樹さん

この度はオーナー様になっていただき感謝申し上げます。  
田植え後は気温が低く、有効茎数の確保の遅れと背丈が低い状態が続いていました。  
ここに来てやって例年の状態に追いつきましたが、全般的に約1週間の生育遅れです。  
それと雨も少ないため水面に藻が張り、地温が上がりにくく成長にプレーキを掛けていた様子でした。これから中干しを実施し、根に空気を与え根を強くし倒伏防止に努めます。

#### 6月の作業内容

##### 1. 除草剤まき (田んぼの中)

田植え1週間後位に苗が根付き成長を始めるタイミングに1回目の除草剤を散布します。雑草は稲にとって大敵です。放置すると水分や養分を横取りしたり、日光を遮り病害虫の発生源となります。田んぼ内の発生を予防します。



##### 2. 草刈り (畦道)

畦道の草刈りは田植え後から何度も行います。強力な除草剤を使えば楽ですが、雑草の根まで枯らしてしまうことで畦が弱くなり崩れる可能性もあるので地面に出ている部分を機械で刈り取ります。



##### 3. 水の管理

水の管理が自動化されていない地域では農家さんが全ての田んぼの水深を基本毎日確認します。水は栄養分を土から吸い上げるのに必要なだけでなく、寒暖の差が激しい山間部では稲が冷えすぎないように保温しています。



##### 4. 稲の分けつ

田植えから稲はどんどん茎が増えていくことで生長します。これを分けつと言い、茎が20本前後になるまで続きます。ただ増やせばよいのではなく、適正数を超えると稲に悪影響を及ぼすため途中で生長を強制的に止めます。

